

## 第4回予算監視・効率化チームリーダー会合 議事要旨

日時 :平成 24 年3月 21 日(水) 16:00-16:30  
場所 :内閣府合同庁舎4号館 4階 共用 1214 特別会議室  
参加者 :石田内閣府副大臣ほか各府省副大臣、政務官等

### ■ 概要

(石田内閣府副大臣)

これより、予算監視・効率化チームリーダー会合を開催する。本日はご多忙のところお集まりいただき、感謝する。国の予算について、その執行の適切性や透明性の確保、効率性の向上を不断に図っていくことが求められていることについては、改めて申し上げるまでもない。本日の会合では、これまでの各府省の予算監視・効率化チームの取組実績を確認するとともに、平成 24 年における行政事業レビューについての説明と「予算監視・効率化チームに関する指針」及び「予算執行の情報開示充実に関する指針」の改訂についての報告を行い、その後、予算執行改善に向けた各府省の取組や今後の課題について意見交換をさせていただく。

まず、各府省の予算監視・効率化チームのこれまでの取組実績の全体像を取りまとめたので、ポイントを説明する。

資料 2-1 について、各府省においては、年 4 回程度予算監視・効率化チームを開催しており、予算執行の情報開示については概ね 23 年度第 3 四半期分まで実施されている。また、各府省の予算執行ホームページには、それぞれ数千～数万件程度のアクセスが行われているとのことである。3 ページにおいて、情報開示の一例としてタクシー代について取りまとめた。各府省から提出いただいたタクシー代の実績を取りまとめると、情報開示を開始した 22 年度において、対前年度比 ▲9%程度と改善している。ただし、23 年度は現時点（第 3 四半期まで）では対前年同期比で増えている。これについては、震災の影響が考えられるが、今後、増加されている府省においては分析を行っていただくことが考えられる。

資料 2-2 について、各府省で、年度末の駆け込み執行の防止について、予算監視・効率化チームによる監視の他、通知の発出、研修の実施等の取組を行っていただいている。この他、いくつかの府省において、①省内資料の印刷は白黒・両面印刷を原則化、②予算執行効率化に関する優れた取組の人事評価への反映、③他省庁との共同調達等の取組が実施されていると承知している。各府省の取組については、後程、予算執行改善策についての意見交換を行う際に、改めて議論させていただく。

次に、報告事項として、平成 24 年における行政事業レビューについて、中塚内閣府副大臣よりご説明いただく。

(中塚内閣府副大臣)

資料 3-1-1 及び資料 3-1-2 について、今月 9 日に行政刷新会議を開催し、平成 24 年における行政事業レビューの取組方針と進め方について決定した。行政事業レビューは、昨年 6 月

7日の閣議決定により毎年実施していくこととされているが、昨年は、東日本大震災等があり、各府省も大変な取組をされたと思う。そのような事情から一部の取組を省略したが、本年は本格実施の初年として、レビューの全工程の実施を通じ、行政の効率化・無駄の排除に着実に取り組んでいきたいと考えている。特に、行政改革が、社会保障と税の一体改革と併せて、車の両輪として強力に進めていく必要がある中で、各府省におかれては、レビューの取組を一層強化していただきたいと考えている。政策効果の高い事業の立案、効率的な予算の執行等に取り組んでいただくことがその柱である。このため、各府省の予算監視・効率化チームがこれまで以上に機能を発揮され、事業所管部局の点検が不十分な場合の指導強化、透明性の高い公開プロセスの実施、外部有識者による点検強化、レビューの概算要求への着実な反映など、レビューの取組の改善や実効性向上のために、チームリーダーの皆様が率先して取り組んでいただくようお願いする。具体的には、資料3-1-2を後程でもお目通しいただければと思うが、昨年のルールをベースに、アウトカムやアウトプットの記載の充実や、外部有識者のチェック体制の強化や、一昨年、昨年と行政刷新会議が各府省に対し行った通告の明文化等を盛り込んでいる。スケジュールについては、資料3-1-2の最後の頁にあるが、お目通しいただき、一層の取組をお願いする。

(石田内閣府副大臣)

続いて、資料3-2-1「予算監視・効率化チームに関する指針」、資料3-2-2「予算執行の情報開示充実に関する指針」の改訂について、報告する。

従来、「予算執行の情報開示充実に関する指針」においては、公益法人に対する支出について今後の検討課題とされていたが、内閣府公益法人行政担当室、これは中塚副大臣が御担当だが、同室において、公表事項の詳細を詰め、各府省に指示を発出するという準備をされているので、今後同室より出していただく指示に基づいて公表を行っていただく旨を盛り込んでいる。また、「予算監視・効率化チームに関する指針」については、このチームリーダー会合の開催については、本取組が軌道に乗ってきたことも踏まえ、今後は、政務レベルで各府省に指示が必要な場合や、政務レベルで議論する必要がある場合に開催することとしたいと思う。各府省への定期的な連絡等については、事務レベルの会合で対応する。なお、会合の開催の有無にかかわらず、各府省の取組内容については、引き続き定期的に取りまとめ資料を作成・公表することとしたいと考えている。

次に、予算執行改善策について意見交換させていただく。まず、各府省における独自の取組の紹介をいただきたいと思う。

資料の印刷に関し、主濱総務大臣政務官よりご説明いただければと思う。

(主濱総務大臣政務官)

総務省では、ICT等を進めており、ペーパーレス化や国民利便の向上を図っているところ。このような中、印刷コストの削減のため、従来から両面印刷の徹底やカラー印刷の原則禁止を省内に周知している。また、プリンターの基本設定の白黒化、両面印刷化を実施してきた。どの程度の印刷かというと、総務省では、裏表で8250万頁が全体で、うちコピーが850万頁となっている。

印刷関係のトータルの金額が全体で3億、コピーが1億となっている。しかしながら、各自で設定を変えることは簡単であるので、結果的にカラーの資料が使われることが実態としてあったということである。総務大臣も民間や地方自治体におけるコスト削減努力と比較して、白黒印刷の数倍のコストがかかるカラー印刷・カラーコピーの使用に問題意識を持っている。今般、国民向けの国民に理解を求めるような資料を除き、総務省内で使用される説明資料等は、白黒使用を原則とすることで対応しており、この方針の徹底を図ってまいりたいと考えている。また、職員各自がより一層のコスト意識を持ってもらうため、例えば、コピー1枚当たりのコスト、白黒で2.7円、カラーで12.8円といったことを示し、コストの「見える化」を進めていこうとしている。全体に言えることだが、資料の電子データ化や、組織の中の意識の是正等、様々なことを組み合わせ、効率化を図っていきたい。

(石田内閣府副大臣)

次に、共同調達に関し、渡辺防衛副大臣、警察庁長官官房総括審議官よりご説明いただく。

(渡辺防衛副大臣)

防衛省として、色々取り組んでいることを端的に紹介させていただく。今、一つ大きな事案として、三菱電機の水増し請求があったが怪しからんことである。これについては、三菱電機に内部調査会を設けさせ、法律家が入って、徹底して、どういうことがあったかを調べている。今までは、水増しの額の倍返しをさせていたが、将来的には3倍・4倍で、水増しをしようものなら会社が大変なことになるようなことをしっかり見せなければならぬということを検討している。また、額としては小さいが、陸・海・空自衛隊においてパソコン・コピー機・システム等を一括調達することで、24年度予算、62億円の予算を減額できる。今まで1年間に単年度契約をしていた。世の中では当たり前のことであるが、複数年契約すれば安くなるものを、24年度から行うことで、62億円の予算執行を改善できる。23年度からは競り下げを導入しており、対象品目はまだ少ないが、封筒で言えば8.25%、トイレットペーパーで8.61%、額としては、197万円が180万円になったなど数十万円単位かもしれないが、こういった結果を踏まえ、24年度からは蛍光灯等、印刷製本、備品、スタッドレスタイヤ等の消耗品について競り下げを導入していき更に支出の削減に取り組んでいることを紹介させていただく。

(警察庁長官官房総括審議官)

都道府県警察において使用する国費物品は、原則として、警察庁から予算配分を受けた都道府県警察自らが調達・取得するものであるが、(1)特殊仕様のため、地方での調達が困難である場合、(2)規格や性能を全国的に統一する必要がある場合に加え、(3)数量が多く、一括調達した方が経済的な場合についても、警察庁における一括調達を進めている。

例えば、全国に約9,000台配備している無線警ら車や交通取締用四輪車等のいわゆる「パトカー」については、耐用年数の経過等により、毎年度おおむね1,000台前後の更新整備が必要となる。都道府県警察単位で調達するよりも全国分をまとめて調達した方が価格低減を見込め

るため、警察庁で一括して調達を行っている。引き続き、これらの取組を適切に実施し、予算執行の効率化に努めていきたい。

(石田内閣府副大臣)

関連で、私からも紹介する。内閣府としては、これまで各省庁に先行し「競り下げの試行」を実施、「随意契約における価格交渉の推進・検討チーム」を設け、価格交渉の方策等を検討、1者応札案件については、公示日の前倒し等による十分な準備期間の確保や、仕様書の見直し等を行い改善、各省庁に先行し水道料金のカード決済を推進し、現金・小切手の取り扱いを廃止などについて、有識者の先生方のアドバイスをいただきつつ取組を行っているところ。

予算の無駄削減という観点からは、先ほどご紹介のあった資料の両面・白黒コピーは、他の府省でも実施できる非常に良い取組かと思う。この他、予算執行改善に向けた今後の取組について、ご意見等あればお願いします。

(中塚内閣府副大臣)

私ども内閣府の行政刷新会議には職員の声があり、職員の声の窓口寄せられる職員の声について、先ほど石田副大臣より資料2-2の駆け込み執行の防止について説明があったが、どこの役所とは言わないが、単年度予算を全額執行しないと本省からクレームがくるといった意見や、人事評価の面談の際に予算の使い切りについて暗に話をされるといった意見や、予算消化のため、意味のない出張や物品購入等を繰り返しているといった意見が、繰り返し寄せられている。各府省においては取り組みを進めていただいていると思うが、今も尚こういった意見が寄せられているので、引き続き年度末の駆け込み執行の防止について、ご注意いただきたい。

(後藤内閣府副大臣)

公正取引委員会では、予算効率化をきちんと行った職員は人事評価をするという仕組みを設けつつある。一人ひとりが行うことであるので、トータルとしてどういう結果が得られたかについて、石田副大臣の全体取りまとめの中で、効率化チームや予算監視を行うことで、どの程度それぞれの省庁が努力しているかについて、全体として見える化をしていき、国民の皆様にも、何十億かの数字は出てくると思うので、事業のスクラップ・アンド・ビルドしていることと合わせ、きちんと評価することが重要。総務省だけで、8,200万枚印刷をしており、政府全体では、10億万枚くらい取っているのではという途轍もない数字である。是非そういった点を、国家戦略の観点からご配慮いただきたい。

(北神経済産業大臣政務官)

前回の会合で、池田元副大臣から調達改革の提案をしたが、実行されたものと実行されていないものがある。実行されたものとしては、競り下げ調達や共同調達の拡大等の契約手法の多様化であり、相当進捗している。一方、実質的に費用対効果を重視して予算の効率化を図る仕組みについては、行政事業レビューが制度化されたところであるが、まだ足りていない部分もある。加

えて、進捗がほとんど見られないものとして、一つ目は、人事評価も重要であるが、より大枠で、各省が効率化するインセンティブが働く仕組みを作っていくべき、という点がある。2つ目として、行政の監視の仕組みが重複しており、事業仕分け自体の整理を行うべきと痛感している。職員にとっても行政レビューシートの作成など、同じようなことを何度も行っている。これは税金の無駄遣いであるし、能力を別の所に使っていただきたいと思う。もっと言えば、こういった重複があると、それぞれの制度自身が形骸化する。この2点は取組みを強化すべき。

まず、予算効率化のインセンティブについては、現行制度では予算を全部使いきらないと財務省に不用として返還され、流用もできない。我が国は単年度主義であり、英国のように単純にはできないと思うが、より中長期的視点で、無駄遣いを削って浮いた分を少しでも自分たちの他の政策に使えるような方式について研究くらいはすべきではないかと提案したい。

次に、評価の重複の点であるが、国家戦略室や行政刷新会議、総務省行政評価局、財務省、さらに、会計検査院などが予算の評価や監視を行っている。それぞれ観点が違うという主張があるのかもしれないが、レビューシート等の作業を行う側としては、ほとんど同じようなことを行っているという認識であり、簡素化することが重要である。予算の評価・監視の仕方についても、無駄を省くことが必要。例えば、行政刷新は、財務省の査定と同様に、各省の要求を審査しているが、こういったところも整理すべきではないか。

最後に、情報開示については、今回の指針の改訂に、公益法人の支出の公表が盛り込まれているが、公益法人への支出については、既に様々な情報開示が行われており、ガラスのような透明な開示を行っているつもりが、ガラスが幾重にも重なり合って、むしろ不透明になっている状況。国民からすると、どこをどうやって検索するといいか分からない可能性がある。予算情報を標準化して、インターネット等で簡素で網羅的に公開できる仕組みの再検討が必要ではないか。

(奥田国土交通副大臣)

北神政務官からお話があったが、業務量の多い国交省においては、チェックや仕分けの重複は避けていただきたいテーマである。

(石田内閣府副大臣)

積極的な御議論をいただき感謝する。今日ご紹介のありました各府省の取組については、他の府省においても是非参考にして頂き、予算執行の改善に取り組んで頂きたいと思う。また、今提案のあった件も含め、それぞれご検討いただくようよろしくお願いする。

最後に、今後とも、予算執行について、政務が関心を持って、その適切性や透明性の確保、効率性の向上を図っていくことが重要。是非リーダーの皆さんには、予算監視・効率化チームの活動に関し、リーダーシップを発揮していただきたいと思う。以上をもって、本日の予算監視・効率化チームリーダー会合を終了する。

(以上)